

はじめに

現在の社会環境は、グローバル化や情報化など、凄まじいスピードで変化し続けています。

その激しい変化に対応するために、学校教育の中でも生徒それぞれが将来直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようにする「キャリア教育」が求められています。

文部科学省は学校教育においてキャリア教育を推進する意義として、「生きる力」の育成を前面に掲げています。

キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義され、その育成すべき力を「基礎的・汎用的能力」だとしています。

この基礎的・汎用的能力の育成につながるキャリア教育プログラムが「NOLTY スコラ キャリアプログラム」です。

このプログラムは、NOLTY のビジネス手帳のノウハウをベースとし、キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会の開発協力のもと設計されています。さらに、2016 年度版から産業能率大学・小林昭文教授の監修によりアクティブラーニング型授業へと改訂いたしました。

今回ご用意した 8 つのプログラムでは、「基礎的・汎用的能力」の 4 つの能力である「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を、年間を通して日常的にバランス良く育成していくことができます。

日々の授業の中で、部活動で、ホームルームで、自宅で、手帳を活用する場面が生徒が自分と向き合う時間であり、自分を成長させる機会になります。

企業が今求めている人材像は、「自分で考え、自分で道を切り拓いていくことでチームや組織に貢献できる『自立した人材』」です。

当プログラムを通して、生徒が社会に出てから必要な資質・能力・態度が早期に育成され、「生きる力」を身につけ、将来大きく羽ばたく人材になることを、心から願っております。

Program

NOLTY スコラ プログラム オプション

8つのプログラム

- 📌 プログラム ① 1 年間の目標を立ててみよう
- 📌 プログラム ② 表紙コラージュ
- 📌 プログラム ③ 未来予想人生グラフ
- 📌 プログラム ④ 定期テストで「PDCA」を学ぶ
- 📌 プログラム ⑤ 大人の手帳リサーチ
- 📌 プログラム ⑥ 校内手帳甲子園
- 📌 プログラム ⑦ 1 分間スピーチ
- 📌 プログラム ⑧ 1 年間の振り返りをしよう

📖 各プログラムについて

ここからは、生徒達の「生きる力」の土台を作る 8 つのプログラムを紹介します。各プログラムの内容や授業の手順を実践しやすいようにまとめましたので、ぜひこれを参考に授業を進めて下さい。

NOLTYスコラ プログラムオプション

手帳を活用して自己管理能力を身につけ、社会的・職業的自立に向けて
基礎的・汎用的能力を育成するキャリア教育プログラム



1 企業が求める人材像とキャリア教育

現在の社会環境は経済のグローバル化や高度な情報社会化、少子高齢化など、凄まじいスピードで変化し続けています。

企業が求める人材像も大きく変化し、求められる知識や技能も高度化しています。

いま求められている人材像は、「自分で考え、自分で道を切り拓いていくことのできる自立した人材」です。こうした社会の変化に対応するために学校教育の中でも、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようにする教育＝「キャリア教育」の必要性が求められているのです。

2 学校におけるキャリア教育とは

中学・高校におけるキャリア教育は、2011年1月、文部科学省の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」において、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されました。

そして、キャリア教育で育成する力を「基礎的・汎用的能力」に焦点を当てています。

私たちはこれを、社会に出たときに独り立ちしており、職業を持ち、その中で役割を担うことができる人材を育成するための教育だと捉えています。

社会に出て必要な資質、能力、態度を育てる教育

〈キャリア教育視点〉

基礎的汎用的能力の育成

人間関係形成・社会形成能力

課題対応能力

自己理解・自己管理能力

キャリア・プランニング能力

日々の教育活動で
社会に出て自立する
ために必要な資質
と能力を育てる

〈社会人になった時の状態〉

社会的
自立※1

職業的
自立※2

※1 社会的自立 … 社会において独り立ちしている。他人の援助無しで独立している。

※2 職業的自立 … 職業を持ち、その中で応分の働きをし人間らしい生活が出来る報酬を得られる。

3 NOLTY スコラ プログラム オプションとは

NOLTYスコラプログラムは、手帳の活用を通じて、「書く・記録する」「時間を意識する」「振り返る」といった基本動作を習慣化し、生徒の「生きる力」の土台となる「自己管理能力」を育成します。

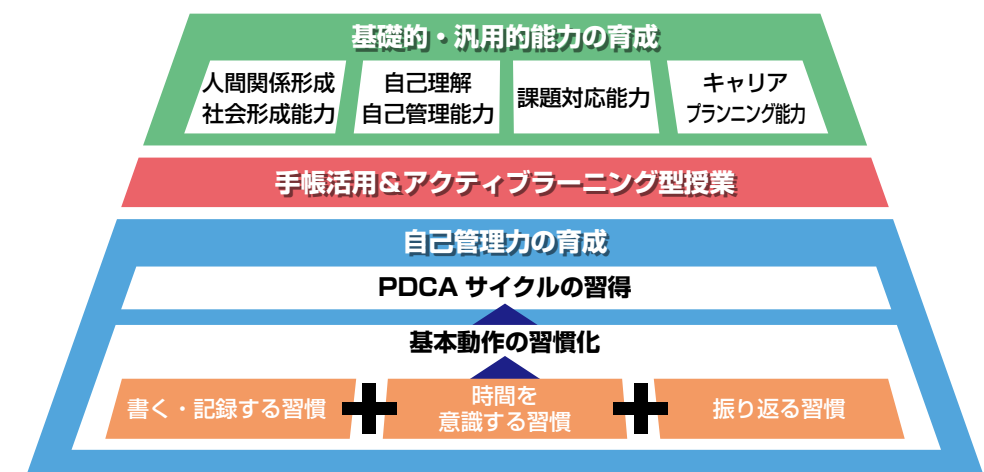
そしてこれをベースにして、キャリア教育的視点を盛り込み、基礎的・汎用的能力の育成につながるキャリア教育プログラムとして開発したのが、「NOLTYスコラ プログラム オプション」です。

弊社がこれまでに培ってきたビジネス手帳や社会人教育のノウハウに加え、キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会と小林昭文氏の協力のもと、社会に出て本当に必要なスキルや考え方を学ぶことができるプログラムに仕上げました。

学校現場で年間を通して取り組めるプログラムですので、継続的・体系的にキャリア教育を実施することができます。

2017年度までは有償でしたが2018年度よりNOLTYスコラをご採用校には無償提供となりました。

（生きる力の土台づくり）～社会に出て必要な資質、能力、態度を育てる～



基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力

多様な他者を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正解に伝えることができるとともに、自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画することができる力。

自己理解・自己管理能力

自分と社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、進んで学ぼうとする力。

課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方について、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

平成 23 年 1 月、中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」より



NOLTY スコラ プログラム オプション一覧

NO.	プログラム名	プログラム概要	実施 推奨月
1	1年間の目標を立ててみよう	- ワークシートの質問項目に沿って記入しながら、1年間の目標を設定します - 昨年度の振り返りをしながら、今年は何をしたいのかを整理し、具体的な目標を設定していきます - 決めた目標は手帳の扉ページに記入します	4月
2	表紙コラージュ ～25歳の自分をイメージしよう～	「25歳の自分」をイメージして手帳の表紙をコラージュ（デザイン）するための素材を揃えます 「25歳の自分」をイメージしてコラージュした表紙への想いやコラージュの理由をワークシートに記入します - 記入した内容を他の人に発表します	4月～ 5月
3	未来予想人生グラフ ～25歳までの道のりをグラフにしよう～	- 将来の自分（25歳の自分）をイメージし、現在からその年齢になるまでの人生グラフをワークシートに記入します 25歳になるまでに起こるであろう大きな出来事（転機）を3つ予想して記入します	4月～ 6月
4	定期テストで 「PDCA」を学ぶ	- 定期テストを通じて、PDCAサイクルの考え方を学んでいきます - テスト前に、具体的な目標設定をし、その目標達成のために「何を」「いつ」「どの程度」実施するのかという学習計画を立てていきます - テスト後には、「振り返り」をして課題を見つけ次への「工夫・改善」を考えます	定期 テストの 前後
5	大人の手帳リサーチ	- 身近な大人に手帳を見せてもらい、手帳の使い方や職業や職種・役割による活用方法やこだわりなどを調査し、ワークシートに報告書としてまとめます - 報告書をクラスで共有し、多くの大人の手帳に触れる機会をつくりま	夏休みの 宿題 または 職場体験 時
6	校内手帳甲子園	自分の手帳の活用術やこだわりのポイント、さらに手帳への想いなどを、シート（応募用紙）に記入します。その内容をグループ内（クラス）で発表し、評価し合います	夏休みの 宿題 9月～ 10月
7	1分間スピーチ (ループリック評価)	- 手帳に書いてある行動記録や振り返りの内容などを題材にして作成した260字程度原稿で1分間スピーチを実施する - 話し手は人に伝えることを意識してスピーチし、聴き手側は評価基準に基づき評価をする	9月以降
8	1年間の 振り返りをしよう	- ワークシートの質問項目に沿って、過ごしてきた1年を振り返っていきます 「1年間の目標」の内容を見返して、「できたこと」と「できなかったこと」を考えながら記入します - 来年への希望や決意を、その理由とともにワークシートに記入します	2月～ 3月

授業	内容目標	このプログラムで育成できる 「基礎的・汎用的能力」
・オリエン テーション ・総合学習 ・LHR	①自分の1年間の目標を深く考える ②他の人の目標を聞いたり、質問を考えたり答える中で、自分の目標をより具体的に ③他の人と協働することで自分の目標がより具体的に なることを実感する	課題対応能力： 目標を設定するまでのプロセスの中で、自分の課題を発見、分析し、その課題を解決していく力を育成する。
・総合学習 ・LHR ・美術	①自分の将来に興味を持つ ②自分の将来をイメージして、表現する方法を考える ③他の人のイメージを聞いて、自分のイメージとの違いや共通点を知る	キャリアプランニング能力： 自分の将来をイメージし、カタチにしていくことで、今の自分への理解や、将来とのつながりを意識し、自分のキャリアを考えていく力を育成する。
・総合学習 ・LHR ・美術	①自分の将来をイメージする ②自分の未来において予想される転機や危機を想像する ③友だちの未来予想から、転機への対処法を学ぶ	キャリアプランニング能力： 自分の将来をイメージし、カタチにしていくことで、今の自分への理解や、将来とのつながりを意識し、自分のキャリアを考えていく力を育成する。
・各教科 ・総合学習 ・LHR	①PDCAサイクルを学ぶ ②学習計画の立て方を学ぶ ③他の人の学習計画を参考にして自分の学習計画を具体化する	自己管理能力： 目標達成のためにどう行動するべきかを自ら考え計画することで自己管理能力を育成する。 課題対応能力： 結果に至った要因を分析し、自分の課題を見つけ、対処していく力を育成する。
・総合学習 ・LHR	①大人の手帳に触れることで、社会の職業や職種をリアルに感じる ②普段活用している手帳が、自分の将来につながるツールであることを理解する ③大人の手帳を見て自分の手帳活用の参考にする	キャリアプランニング能力： 大人の手帳に触れ、現実の社会の職業や職種を感じることで、将来とのつながりを意識し、自分のキャリアを考えていく力を育成する。
・総合学習 ・LHR ・文化祭	①仲間の手帳活用を見ることで、より良い手帳活用方法を学ぶ ②仲間の良いところや学んだことを自分のスキル・知識として展開する力を育成する	人間関係形成・社会形成能力： 自分の活用術を伝えることや、他者の手帳を評価することを通して、多様な他者を理解し、自分の考えを正確に伝えることができる力を育成する。
・総合学習 ・LHR ・SHR	①自分の考えや伝えたいことを、聴き手に伝える力をつける。スピーチの型を覚える ②ループリックの手法で評価することによって、発表者と聞き手が評価基準を理解し、より良いスピーチの方法を理解する ③他の人のスピーチを聞いたり評価を貰ったりしながら、自分自身のスピーチを振り返る	自己理解・自己管理能力： 自分の考えを整理して他者に伝えることや、他者のスピーチを評価することを通して、自ら気づきを得ることで、今後の成長のために進んで学ぼうとする力を育成する。
・総合学習 ・LHR	①1年間という長期間を振り返り、次の1年という長い期間を見定めた計画をつくる ②良かった点・うまくできた点を確認し、次の年の課題を設定する ③課題に対して大まかな計画・方針をつくる	課題対応能力： 1年間の振り返りを通して、自分の課題を発見、分析し、その課題を解決していく力を育成する。

1

これからの キャリア教育

学習指導要領に「主体的・協働的な学び（いわゆる『アクティブ・ラーニング』）」を取り入れるとの諮問が発表され、日本中が揺れています。その理由は世界中が工業化社会から知識基盤社会へと転換が進みつつある中で、これまでの学校教育システムは時代に合わなくなってきたからです。特に、生徒たちが学校でその大半の時間を過ごす教科科目の授業を変えなくては、時折行われる「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」の時間だけでは絶対的に時間が不足しているからです。

では、キャリア教育の時間はこれからどうあるべきなのか。これから「いわゆる『アクティブラーニング型授業（以下、AL型授業）』」が広がっていくと思われる時代にあって、これからの「キャリア教育」の在り方を私たちは以下のように考えました。

- 1 生徒たちが時代にあった「生き方・学び方・成長の仕方」を身に付ける時間にする。
- 2 古典的な「一直線型のキャリア発達モデル」だけでなく、トランジション・モデルやクランボルツの「計画的偶発性理論」なども取り入れたプログラムにする。
- 3 単なる「大学選び」「職業探し」ではなく、生徒たちが自らの生き方を考え、大学生や職業人として必要なスキル（社会人基礎力など）を身に付けられるようにする。

- 4 生徒たちがAL型授業の意義を理解し積極的に参加できるようにするとともに、そこで必要な「表現する力」「話し合う力」「チームで協力できる力」などを、このキャリア教育の時間に高めることができるようにする。

更に、授業者である先生たちにとっても以下の効果が上がるように考えました。

- 5 このプログラムの考え方が先生たちの専門科目をAL型授業に切り替える際の役に立つようにする。特に、「内容目標の設定」「態度目標の設定」「質問による介入」「振り返りの時間を持つ」などは、教科科目をAL型授業に切り替える際に有効な視点です。これらの効果を「キャリア教育」の時間に確かめていただき、生徒への働きかけのスキルを磨くことで、教科科目のAL型への切り替えをスムーズに行えるようにする。

以上のスキルは担任としての「クラス経営」や「保護者会対応」、部活動顧問としての「部活動指導」の際の考え方やスキルとしても活用できるものです。

要するに、私たちはこのプログラムを進めることによって、教室が「生徒も先生も学習し、成長できる場」になることを狙いとしています。そのことが先生たちの負担と負担感軽減にも役立つことと思います。

このプログラムとワークシートを活用することで先生たちのキャリア形成が益々豊かになることを祈念します。

2

キャリア教育と アクティブラーニング

～なぜ、キャリア教育にアクティブラーニングなのか～

これからのキャリア教育がアクティブラーニング型授業でなくてはならない理由は、まずは以下の社会的背景に由来します。

- 1 工業化社会においては、みんなと一緒に歩いていけば幸せな生活が保障されていた。しかし、知識基盤社会ではそれが維持できなくなってきた。
- 2 生徒たちの6割は「今はない職業につく」と言われる現在において、先生や大人たちが「適切な仕事」や「正しい生き方」を伝えることは不可能となってきた。
- 3 ロボットの台頭が目覚ましくなっているために、ロボットにもできる仕事＝「言われたことを言われたとおりにやる」しかできない人は、仕事につくことができない可能性が高い。

つまり、生徒たちが未来社会を生き抜く力を育成するためには、「考え抜く力・前に踏み出す力・チームで働く力（＝社会人基礎力）」や「思考力・判断力・表現力」を身に付けておく必要があります。一般的な教科科目の授業ですら、そのためにアクティブラーニング型授業に切り替えようとしているのですから、キャリア教育の時間がそれに逆行するわけにはいかないのです。

別の視点もあります。一般教科科目の授業がま

だAL型授業に切り替わっていない学校ならば、キャリア教育をAL型授業に切り替えることをきっかけとして、一般教科科目をAL型授業に切り替えることが可能になります。その理由は以下の3点です。

- 1 キャリア教育の担当は主に担任。つまり、全ての教科科目の先生が担当することができる。つまり、キャリア教育担当者の打合せは自動的に教科を超えた授業者による授業改善の打合せになりやすい。
- 2 一般教科をAL型授業に切り替えるためには「コンテンツ(授業内容)」と「プロセス(授業過程)」の両方を切り替える必要があります。これは少々困難です。その結果、「話し合いはさせているけれど、テストの点数は下がってしまった」などが起きる可能性があります。この点、キャリア教育では「覚えてもらわなくてはならないこと」はさほどありません。従って、授業者としては「プロセス」の開発や、プロセスを調整するスキルを磨くことに集中できます。その上で、コンテンツをどう乗せていくかを考えて、一般教科科目をAL型に切り替えるほうが容易なのです。
- 3 生徒も慣れます。伝統的な授業に慣れた生徒の一部は教科科目の授業がいきなりAL型に切り替わるととまどいます。場合によっては、抵抗したり反発したりします。その不満が他者に伝わり大騒ぎになることもあります。そこで、キャリア教育の時間からAL型授業を導入して、生徒がその意義を理解し、話し合いの仕方などに慣れさせておくと、一般教科科目がAL型授業に切り替わった時の準備ができます。

3

アクティブ ラーニングとは

1 「アクティブラーニング (能動的学習)」の定義

アクティブラーニングの定義

一方的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う

(満上眞一 2014)
(出典:「アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換」東信堂)

ここで大切なことは3つです。第1は学習にはアクティブラーニング(能動的な学習)と受動的な学習があるとしたこと、第2には、その線引きを「聴くだけ」より消極的な学習は受動的学習としたこと、第3は具体的な活動を提示したことです。なお、「認知プロセスの外化」とは生徒がグループワークなどの活動をした後に、途中で生じた「感情・考え・意図」などを書く・話すなどの方法で表現することの意味です。

2 「アクティブラーニング型 授業」の定義

授業者にとって大事なものは「アクティブラーニング型授業(AL型授業)」です。これは「学習者にアクティブラーニングが起きることを含む全ての授業形式」(出典:「アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換」東信堂)となります。字義どおりなら、50分間の授業時間に40人の生徒のうちの1人に1分間アクティブラーニングが

起きたらAL型授業です。つまり、皆さんがこれまで実践してきた授業の大半はAL型授業と言えます。

ただ、「そのままが良い」のではなく、「より多くの生徒に、より多くの時間、アクティブラーニングが起きるような授業を開発・実践していくこと」が、私たちの現実的な課題とすることになります。

3 主体的な学び・協働的な学び

生徒にアクティブラーニングが起きていても、主体的ではない場合や、協働的ではない場合もあります。これは気を付けなくてはならない点です。逆に言えば、「主体的な学び・協働的な学び」を促進することで、結果的にアクティブラーニングが起きると考えるほうがよさそうです。

4 「主体的な学び、協働的な学び、アクティブラーニング」による授業の効果

- (1) 居眠りを解消し、生徒が楽しく学び、生徒が積極的に参加する授業を実現できる。
- (2) 生涯学習の基盤となる「学び方」を習得できる。
- (3) 思考力・判断力・表現力を育成する言語活動ができる。

4

基本的な授業スタイル (全プログラム共通)

1 根本的な授業形式

右図に示したサイクルを生徒が自分で回せるようにすることを根本的な狙いとしています。そのために2つのことが必要です。

1つは

「安全安心の場」をつくること。

そうでないと生徒たちに「振り返りと気づき」は起きにくくなります。

2つは

「質の良い質問」を投げかけることです。

これにより、生徒は「振り返り」を始めます。

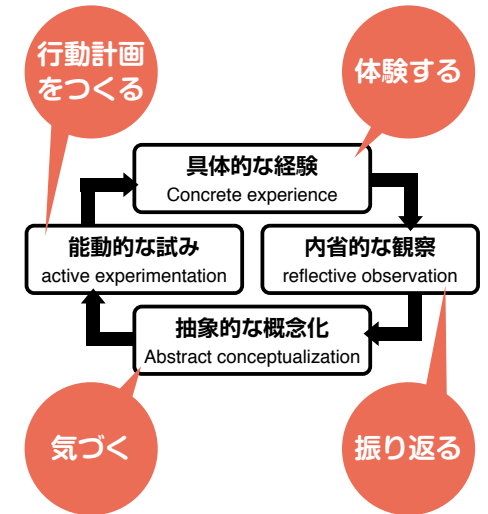
2 授業者の役割

- (1) 安全・安心の場をつくる
- (2) 態度目標・内容目標を提示する
- (3) 生徒の自主性を促す
- (4) コンテンツよりプロセスを重視する

3 教師の働きかけ

- (1) ワークの目的・目標、内容と方法を指示する。
- (2) 質問中心の介入でサポート役に徹する

※批判・禁止・命令をしないで、安全安心の場を維持する。



Point

PDCA とコルブの経験学習モデル

わたしたちは、PDCAは行動のプロセス管理、コルブの経験学習モデルは思考のプロセス管理ととらえています。NOLTY スコアプログラムオプション(授業)で思考の訓練を、日々の生活ではスコラ(手帳)で行動の訓練を行いましょう。

- (3) 気づき(リフレクション)を促す
※気づきを促すためには、生徒が「回答」と受け取ってしまうことを言わない
- (4) 全体、グループ、個人に対して適切な介入をする

例

◇おしゃべりをしている生徒に対して

- ▶ 「何か気になることがありますか？」
- ▶ 「このまま私の説明を続けていてもいいですか？」

◇グループワークが停滞、またはテーマから逸れていそうな場合

- ▶「チームで協力できていますか？」
- ▶「グループワーク終了まであと〇分ですが、順調ですか？」

※「上手くできていますか？」や「大丈夫ですか？」など評価的発言は控える

- ▶「わからないことは質問をできていますか？」
- ▶「チームに貢献していますか？」

◇何か生徒から質問された場合

- ▶「そうなんだ、そんな時はどうすればいいと思いますか？」
- ▶「態度目標にヒントはないですか？」

4 板書をしない
(必要情報は配布かパワポで映写)

- (1) 黒板に書いてあることを「書き写す」だけでは頭に入らない
- (2) 自分で考えたことを「書き出す・まとめる」
こういう「書く」作業が、思考力を深める
- (3) 授業の時間節約・短縮に効果的

5 タイムコントロールは
生徒に任せる

配布資料、黒板、プロジェクター等でタイムスケジュールを表示し、進める。

生徒達が常に時間を意識できるようにしておくことで、自分達で時計を見ながら間に合うように取り組み始める。

また、授業者が説明する時間も厳守する。

※おすすめのグッズ：マグネット式の大きめタイマー

6 リフレクションワークブックを
使う

目的

- ①生徒側：気づきを得るため
行動計画を促すため
- ②先生側：生徒理解のため

備品

1. 付箋 (5×5cm 推奨)

2. PPT データ、PC、プロジェクター

- PC やプロジェクターの準備が難しい場合は、以下で代用可能
- ・実施する内容を A3 用紙にプリントアウトし、黒板に貼り付けておく
 - ・配布資料として準備する

3. ワークシート

配付資料として準備する

◇AL 型授業のトレーニングは次の順番でトライすると取り組みやすい

- ① NOLTY スコラ プログラム オプション
- ② 総合学習
- ③ ロングホームルーム
- ④ 保護者会
- ⑤ 自分の担当教科の授業

1年間の目標を立ててみよう

◆必要授業数：1コマ ◆実施推奨期間：4月

授業概要

- ▶ ワークシートの質問項目に沿って記入しながら、1年間の目標を設定します
- ▶ 昨年度の振り返りをしながら、今年は何をしたいのかを整理し、具体的な目標を設定していきます
- ▶ 決めた目標は手帳の扉ページに記入します

到達レベル目標

- レベル1** 自分のやりたいことを書き出すことができる
- レベル2** 具体的な目標を設定し、そのためにやるべきことを書き出すことができる
- レベル3** 進路の目標に向けたタスク化ができる

内容目標

- ①自分の1年間の目標を深く考える
- ②他の人の目標を聞いたり、質問を考えたり答える中で、自分の目標をより具体的ににする
- ③他の人と協働することで自分の目標がより具体的になることを実感する

態度目標

- ①話す ②質問する ③説明する ④動く ⑤チームで協力する ⑥チームに貢献する

準備物

- ▶ スコラ手帳
- ▶ ワークシート

目標設定の大切さ

こうなりたい、何かを成し遂げたいというときには、明確な目標を持つことが重要です。これから生徒たちは、予定や計画、実行したことの記録を手帳に記入していくようになりますが、その目的は、自分の行動をコントロールして目標を達成するために他なりません。目標を達成したい気持ちが強ければ強いほど、予定や計画の実行力が高まります。強制ではなく、生徒が自ら考え、自分の心によく聞いて、本当に達成したい目標を設定させることが重要になります。はじめは漠然とした目標でも構いません。でも徐々に目標を具体的にしていき、そのための計画を立てていくことができれば、より目標達成の可能性が高まっていくのです。

目標は目に付くところに！

目標が決まったら、手帳の最初のページ（扉）に書くよう促してください。なぜなら、見たいときにすぐ開いて見ることができるし、手帳を使うときに自然と目に入るページだからです。生徒は目標を見る機会が増え、自然と意識する事になり、「そうだ！いま頑張らないと！」というような気持ちになってきます。

ワークシート

ワークシートで設定した目標をスコラ手帳の扉ページ（1ページ目）に記入します。

授業の流れ 所要時間 45分

導入
(0~5分)

〈5分〉態度目標と内容目標を説明する

✓ 本時の「授業概要」「態度目標」「内容目標」を伝える

授業概要

- ▶ ワークシートを記入する
- ▶ 1年の目標を、手帳の「年間目標ページ」に記入する

態度目標

- ①話す ②質問する ③説明する ④動く ⑤チームで協力する ⑥チームに貢献する

内容目標

- ①自分の1年間の目標を深く考えましょう
- ②他の人の目標を聞いたり、質問を考えたり答える中で、自分の目標をより具体的にしましょう
- ③他の人と協働することで自分の目標がより具体的になることを実感しましょう

展開①
(5~10分)

〈5分〉ワークシートを記入する

✓ ワークシートを記入する

展開②
(10~32分)

〈22分〉ペアワークを2回行う

✓ ステップ1：相手のワークシートを読み、質問を考える（5分）

- ▶ 2人1組でペアをつくり、お互いのワークブックを交換して読み込む
下記の定番質問の他に、生徒に独自で質問を考えるよう伝える（1~2個）
- ▶ 定番質問
Q1 この中で1番やりたいことはなんですか？
Q2 Q1の答えを選んだ理由はなんですか？
Q3 ワークシート「私は1年後こうなっていたい!!」の項目について、その先の計画やビジョンはありますか？
Q4~5 生徒が独自で考えた設問

✓ ステップ2：ペアでQ&Aを行う（6分）

- ▶ 一人が質問し、もう一人が答える（3分）
- ▶ 3分が経過したら、授業者は役割を交代するよう声をかける
- ▶ 再びQ&Aを行う（3分）

✓ 新しいペアをつくり、ステップ1・2を繰り返す（11分）

〈13分〉ワークシートを完成させる&リフレクションを記入する

✓ ワークシートを完成させて、リフレクションを記入する

- ▶ Q&Aを行って新たに思ったことや気づいたことを、ワークシートに書き足して完成させる
- ▶ ワークシート下部のリフレクションを記入する
- ▶ 設問項目
①態度目標は実行できましたか？また、その中で気づいたことはなんですか？
②質問に答える中で、新たに気づいたことや感じたことはなんですか？
③この授業を終えて、どんな1年間にしたいと思いましたか？

✓ 目標をスコラ手帳に転記する

- ▶ 本授業で立てた目標を、スコラ手帳の扉ページ「年間目標」に書き写す
- ▶ 目標達成のためのスケジュールをスコラ手帳に記入する

まとめ
(32~45分)

表紙コラージュ ～25歳の自分をイメージしよう～

◆必要授業数：2コマ ◆実施推奨時期：4～5月

1コマ目

授業概要

▶「25歳の自分」をイメージして手帳の表紙をコラージュ（デザイン）するための素材を揃えます
※コラージュの完成は宿題

到達レベル目標

レベル1 自分の将来（生き方）をイメージしようとする姿勢を持つ

レベル2 自分の得意・不得意・やりたいことなどを、将来と結び付けて考えることができる

レベル3 自分のやりたいこと、ありたい自分を具体的にイメージすることができる

内容目標

①自分の将来に興味を持つ
②自分の将来をイメージして、表現する方法を考える
③他の人のイメージを聞いて、自分のイメージとの違いや共通点を知る

態度目標

①話す ②質問する ③説明する ④動く
⑤チームで協力する ⑥チームに貢献する

準備物

▶ スコラ手帳（手帳の白い表紙を台紙として使用）
台紙は各自用意しても良い
▶ のり、はさみ・カッター など
▶ 切り抜きのできる雑誌・記事・写真・シールなどの素材
※1週間前くらいから声をかけをし、集めたものを持ち寄る
▶ ワークシート

2コマ目

授業概要

▶「25歳の自分」をイメージしてコラージュした表紙への想いやコラージュの理由をワークシートに記入します
▶記入した内容を他の人に発表します

到達レベル目標

レベル1 自分の将来（生き方）をイメージしようとする姿勢を持つ

レベル2 自分の得意・不得意・やりたいことなどを、将来と結び付けて考えることができる

レベル3 自分のやりたいこと、ありたい自分を具体的にイメージすることができる

内容目標

①他の人の作品の良い点を見つけたり、質問をする
②他の人から褒められたり質問を受けることで自分の将来についてのイメージをふくらませる
③イメージした将来に向かって今からやろうと思うことを言葉にする

態度目標

①話す ②質問する ③説明する ④動く
⑤チームで協力する ⑥チームに貢献する

準備物

▶ 完成させた表紙
▶ ワークシート
▶ 付箋

② 将来をイメージするクセづけを

「キャリア教育」の必要性が問われるようになり、「早く夢を見つけよう」「なりたい職業を早く決めよう」とする場面に会います。しかし、本当にそれが良いのでしょうか。一般的に、学生の段階で見える社会は狭く、まして高校生はどれだけの職業を知っているのか、その中で「早く職業を決めなければ」と焦ってしまうことが果たして本当に「良いことなのか」と疑問が残ります。

子ども達のキャリア教育で必要なのは、「職業を早く決める」ことではなく、「自分の将来に興味をもつこと」です。「将来必要な力は何だろう」「向いている仕事ってなんだろう」「将来どんな大人になりたいだろう」と、自分の未来に興味を持つことで、「自分はこれに興味があるかもしれない」という自己理解に繋がります。「将来をイメージする習慣をつけること」それ自体が大切なのです。

③ なぜコラージュなのか？

コラージュとは、現代絵画の技法の1つで、フランス語の「糊付け」を意味する言葉。写真や絵や文字などを、新聞・雑誌などから切り抜き、これを台紙に貼って1つの作品を作るというものです。

この「表紙コラージュ」には正解はありません。雑誌の切り抜きや写真などの力を借りて自分の将来を「イメージする」ことに意味があります。作業をしているうちに「自分の価値観」に気づく、そのプロセスが大切であり、出来上がってみると一人一人の個性が表れているものなのです。

④ 「25歳」である理由とは？

本プログラムでは、コラージュのテーマを「25歳の自分」と設定しました。ある年齢にポイントを絞ることで、これまでは漠然としかイメージしなかった「自分の将来」について、少しずつ明確な意識づけができるようになります。また、25歳というのは、学校を卒業し社会人となり、仕事を一通り覚え、一人立ちして責任が増す自立の時期です。生徒が現在の自分からイメージしやすい「大人像」だと考えています。

表紙完成イメージ

▼看護師をイメージしている生徒の表紙



▼まんが家になりたい生徒の表紙



▼野球好きな生徒の表紙



▼吹奏楽を続けていきたい





1コマ目 授業の流れ 所要時間 45 分

導入 (0~5分)

〈5分〉態度目標と内容目標を説明する

✓ 本時の「授業概要」「態度目標」「内容目標」を伝える

📋 授業の概要

- ▶これから1年間使っていくスコラ手帳の表紙を作る
- ▶「コラージュ」という手法を使い、25歳の自分をイメージして表紙に表現する



👤 態度目標

- ①話す ②質問する ③説明する ④動く ⑤チームで協力する ⑥チームに貢献する

❗ 内容目標

- ①自分の将来に興味を持ちましょう
②自分の将来をイメージして、表現する方法を考えましょう
③他の人のイメージを聞いて、自分のイメージとの違いや共通点を知りましょう

展開 ① (5~32分)

〈27分〉素材を選ぶ

✓ 「コラージュ」の説明をする (2分)

- ▶コラージュとは、台紙に様々なものを貼り付けて構成する絵画技法
- ▶事前に集めてきた雑誌・記事・写真を切り取って、「25歳の自分のイメージ」になるように台紙に貼っていく

✓ 素材を1ヶ所に集める (10分)

- ▶持参した素材を教室内の1ヶ所に集める (5分)
(※持ち寄った素材は全員で使用する。ただし、個人的に準備したテープやシールは個人使用可)
- ▶授業者が素材選びのポイントを説明する (5分)
 - ①25歳の自分をイメージしながら集める。漠然としたイメージでOK
 - ②「これが好き」「これが気になる」といった直感で選んでいく

✓ 素材を選ぶ (15分)

- ▶必要な部分をカットする

展開 ② (32~40分)

〈8分〉表紙のイメージを練る

✓ 選んだ素材でコラージュのイメージを練る (5分)

- ▶素材を台紙の上に並べて、イメージを練る

✓ グループで選んだ素材の説明をする (3分)

- ▶5人前後のグループをつくる
- ▶現在の自分が持っている未来へのイメージと、素材の使い方を1人ずつ発表する (1人30秒程度)
※次回の授業までにコラージュを完成させることを宿題にする

まとめ (40~45分)

〈5分〉リフレクションを記入する

✓ リフレクションを記入する

- ▶ワークシート左下のリフレクションを記入する
- ▶設問項目
 - ①態度目標をどのように実行しましたか？
 - ②自分の将来を考えて気づいたことや感じたことはなんですか？
 - ③他の人の話を聞いて感じた、自分との違いや共通点はなんですか？



2コマ目 授業の流れ 所要時間 45 分

導入 (0~5分)

〈5分〉態度目標と内容目標を説明する

✓ 本時の「授業概要」「態度目標」「内容目標」を伝える

📋 授業概要

- ▶デザインへの想いや理由をワークシートに記入する
- ▶記入した内容を他の人に発表する

👤 態度目標

- ①話す ②質問する ③説明する ④動く ⑤チームで協力する ⑥チームに貢献する

❗ 内容目標

- ①他の人の作品の良い点を見つけたり、質問しましょう
②他の人から褒められたり質問を受けることで自分の将来についてのイメージをふくらませましょう
③イメージした将来に向かって今からやろうと思うことを言葉にしましょう

展開 (5~35分)

〈30分〉作品への想いを共有する

✓ 自分の作品に込めた想いを記入する (3分)

- ▶ワークシートに、「コラージュに込めた想い」や、「25歳の自分のイメージ」などを記入する

✓ グループで作品と記入した文章を並べて、鑑賞する (15分)

- ▶5人前後でグループをつくる
- ▶作品とワークシートを並べて、鑑賞する
- ▶付箋に以下を記入し、全ての作品に貼り付ける
 - ①作品の良いと思ったところ
 - ②作品に対する質問

✓ フリートークまたはプレゼンテーション (12分)

- ▶グループで、付箋の内容を元に「①フリートーク」か、「②作品のプレゼンテーションと質疑応答」を行う
- ※クラスに合わせて選択してください。
グループワークに慣れていて、全員が均等に3~5分の話しをできる場合は①を、誰か1人がしきってしまったら、全員が1分くらいで沈黙してしまう場合は②がおすすめです

ワークシート 表紙コラージュ → 25歳の自分をイメージしよう ④「25歳」である理由とは？ 25歳というのは、大学を卒業した社会人となって2~3年後の年齢。仕事も一通り覚え、知り合いも、少しずつ異色が増えている。自分の時間です。 「25歳に育つまでに、どんな大人にならなければならないだろう」「何に興味を持ち、何をしたいだろう」「どんな働き方をしたいだろう」など自分の未来を想像して、表紙に表現してみてください。そして、その表紙に込めた想いをワークシートに書いてみましょう！ ⑤将来をイメージする目標をつけよう 将来の夢ややりたい仕事などは具体的に決まっていなくても、無事卒業は全くありません。 今、周りに見えている社会人はほんの一部であり、まだまだ知らない職業がたくさんあるでしょう。大切なのは、夢や目標が定まっていなくてもまだ定まっていなくても「今後自分がどうなっていきたいのか」「どんな大人になりたいのか」と将来をイメージすることです。 自分の未来に興味を持ち、将来をイメージする目標をつけることで、日常生活の中から色々な気づきにつながる機会があります。それが「やりたいこと」に近づくきっかけになるのです。 ⑥目標達成をどのように実行しましたか？ 自分の将来を考えて気づいたことや感じたことはなんですか？ ⑦他の人の話を聞いて感じた、自分との違いや共通点はなんですか？ NOLTY PLANNERS INC.	表紙コラージュに込めた想い 私の25歳は、看護士として働いています。 仕事にも慣れて、笑顔で患者さんに接しています。 たくさんたくさんの人に「ありがとう」と言われたし、私も感謝したいので、コラージュに「感謝」という字を入れました。 ⑧目標達成を達成するためにどんな工夫をしましたか？ ⑨他の人から寄せられた感想や質問を受けて、将来に向けて感じたことや気づいたことはなんですか？ ⑩イメージした将来に向けて、どんな行動をしてみようと思いましたか？ NOLTY PLANNERS INC.
---	--

まとめ (35~45分)

〈10分〉リフレクションを記入する

✓ リフレクションを記入する

- ▶ワークシート右下のリフレクションを記入する
- ▶設問項目
 - ① 態度目標を実行するためにどんな工夫をしましたか？
 - ② 他の人から寄せられた感想や質問を受けて、将来に向けて感じたことや気づいたことはなんですか？
 - ③ イメージした将来に向けて、どんな行動をしてみようと思いましたか？

未来予想人生グラフ ～25歳までの道のりをグラフにしよう～

◆必要授業数：1コマ ◆実施推奨時期：4～6月

授業概要

- ▶ 将来の自分（25歳の自分）をイメージし、現在からその年齢になるまでの人生グラフをワークシートに記入します
- ▶ 25歳になるまでに起こるであろう大きな出来事（転機）を3つ予想して記入します

到達レベル目標

- レベル1** 自分の将来（生き方）をイメージしようとする姿勢を持つ
- レベル2** ありたい自分と「進路選択」を関連付けて考えることができる
- レベル3** ありたい自分を実現することを目指し、主体的な進路計画や進路選択ができる

内容目標

- ①自分の将来をイメージする
- ②自分の未来において予想される転機や危機を想像する
- ③友だちの未来予想から、転機への対処法を学ぶ

態度目標

- ①話す
- ②質問する
- ③説明する
- ④動く
- ⑤チームで協力する
- ⑥チームに貢献する

準備物

- ▶ 大人の人生グラフ ※授業者自身の人生グラフがあると良い
- ▶ ワークシート
- ▶ 事前課題

「表紙コラージュ」と「人生グラフ」の連動で、今と将来の「つながり」をイメージする

本プログラムのテーマは、表紙コラージュのプログラムと合わせ「25歳までの道のり」を描く設定にしています。

表紙コラージュで「25歳の自分」をイメージし、「そこまで自分がどんな人生を歩んでいくのか」を想像して人生グラフにするというように、2つのプログラムを連動して取り組むことで更に生徒の意識が高まり、効果が増していきます。

大人の人生グラフを見せる意味

大人の人生グラフを見ると、大抵の場合が、グラフが上下し、人生の中で「良い時」もあれば「悪い時」もあります。実は生徒たちにとっては、この「波」を目にすることがとても重要です。

今の社会では、「若者は失敗に弱い」「失敗を乗り越えられない」という課題を耳にします。「カンタン・便利」な世の中に生まれ育ってきた世代の子供達は、生活の中で「失敗」をしたり「苦勞」をするという経験をする機会を取り上げられてきました。その結果、失敗から立ち直るという経験をしておらず、1つの失敗を人生の大きな失敗だと捉えてしまいます。生徒が大人の生き方グラフを見ることで、人生には「谷」もあるが、時間が経てばそのほとんどの「谷」は「山」に変わっていることを知ることができます。その時にはどんなきっかけがあったのか、どうやって乗り越えたのかを知ること、今後の生徒の判断にプラスの影響を与えたり、安心を感じさせることができるのです。

授業の流れ 所要時間 45分

事前準備

授業者の人生グラフを作成する

✓ 授業者自身の人生グラフを書く

- ▶ 「わたしの人生グラフ」シートを使って、授業者自身の「人生グラフ」を書いておく
- ▶ 今までの人生において、どのような転機があったのかを中心に記入する（「わたしの人生グラフ」サンプルで代用することも可能）



事前課題

0才から現在までの人生グラフを作成する

✓ 授業当日までに、「わたしの人生グラフ」シートをコピーして生徒に配布して、記入して当日持ってくるように連絡する。なお、回収はしないことを伝える。

指導のポイント

【事前課題を行うねらい】「キャリア（career）」の語源は「馬車の轍（わだち）」。将来を想像するためには、これまで自分が歩いてきた足跡を振り返る作業が必要です。なので、未来を考えるために、まずは現在までの人生グラフを作成してもらいます

【回収を行わない理由】生徒の中には、過去を知られることに抵抗がある生徒もいます。特に中学生・高校生くらいの時期では、小学生や中学生時代のいやな思い出を払拭できていない子もいるかもしれません。「回収は行わない」と伝えることで、そういった生徒も含め、全ての生徒が安心して過去を振り返る作業を行うこと（安心安全の場づくり）ができます

〈5分〉態度目標と内容目標を説明する

✓ 本時の「授業概要」「態度目標」「内容目標」を伝える

授業概要

- ▶ 25歳の自分をイメージして、現在からその年齢になるまでの未来予想人生グラフをワークシートに記入する
- ▶ 25歳になるまでに起こるであろう大きな出来事（転機）を3つ予想して記入する

態度目標

- ①話す
- ②質問する
- ③説明する
- ④動く
- ⑤チームで協力する
- ⑥チームに貢献する

内容目標

- ①自分の将来をイメージしましょう
- ②自分の未来において予想される転機や危機を想像しましょう
- ③友だちの未来予想から、転機への対処法を学びましょう

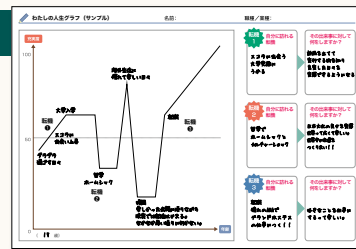
転機とは？

- ▶ ある状態から、他の状態に変わるきっかけ。
- ▶ 人生に変化を及ぼすきっかけ。出来事。
- ▶ 好転する場合にも、悪化する場合にも使う（例）入学、転校、卒業、就職など。

展開①
(5~10分)

〈5分〉授業者(大人)の人生グラフを見せて、生きてきた道のりを話す

- ▶ 転機となった出来事と、その出来事にどう対応したのか(乗り越えたのか)などを説明する
- ▶ 「わたしの人生グラフ」サンプルで代用することもできます



展開②
(10~25分)

〈15分〉未来予想人生グラフを記入する

✓「人生グラフ」を作成する

- ▶ ワークシートを使用
- ▶ 今後、どんな転機があるか、その時の充実度(幸せ度)はどのくらいかを想像して記入していく

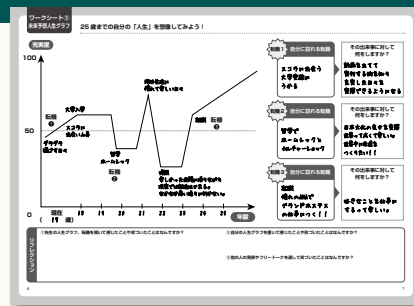


展開③
(25~37分)

〈12分〉グループ発表を行う

✓グループで発表

- ▶ 5人前後でグループをつくる
- ▶ グループ内で、1人ずつ発表を行う(1人2分)。発表者以外のメンバーは発表を静かに聞き、終わったら拍手で感謝をあらわすよう伝える
- ▶ タイムコントロールは授業者が行う。2分ごとに「そろそろ2人目が発表してください」等と全体にアナウンスする



✓フリートーク

- ▶ 全員の発表が終わり、時間が余っているグループがあればフリートークを行う

指導のポイント

【拍手をする理由】発表後、拍手をさせるのには2つの理由があります。1つは、発表している子にとって安心・安全の場を与えること。リアクションを決めることで、他のメンバーが静かになってしまったり、無反応になることを防止できます。2つ目ですが、他人の人生を聞かせてもらえるのはとても貴重な機会です。聞かせてもらった感謝を拍手あらわすことは、聞いているメンバーにとって他人の人生を大切にするためのスタートとなります

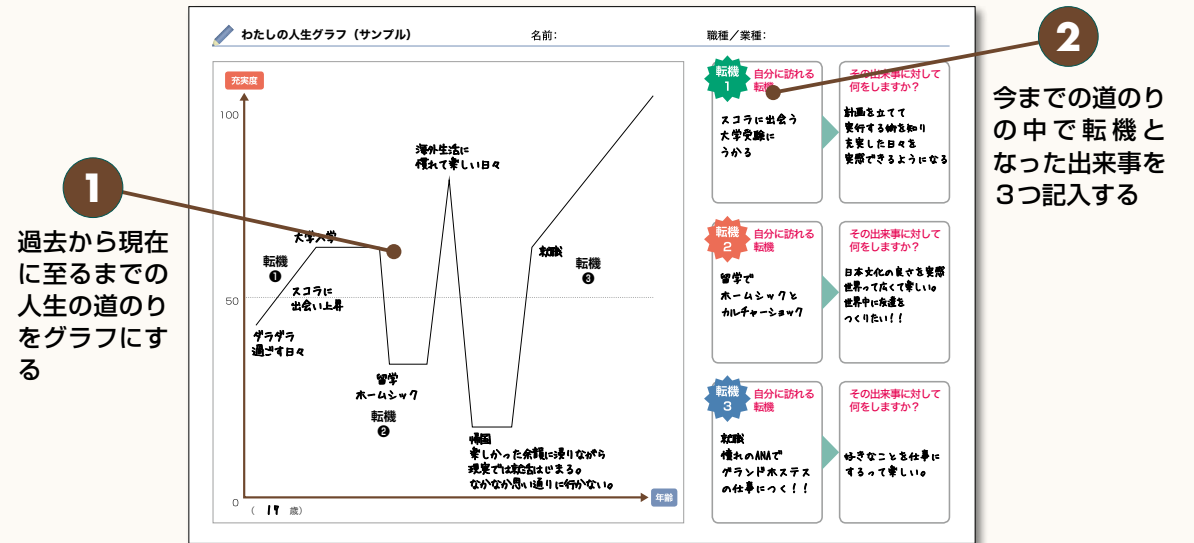
〈8分〉リフレクションを記入する

✓「リフレクション」を記入する

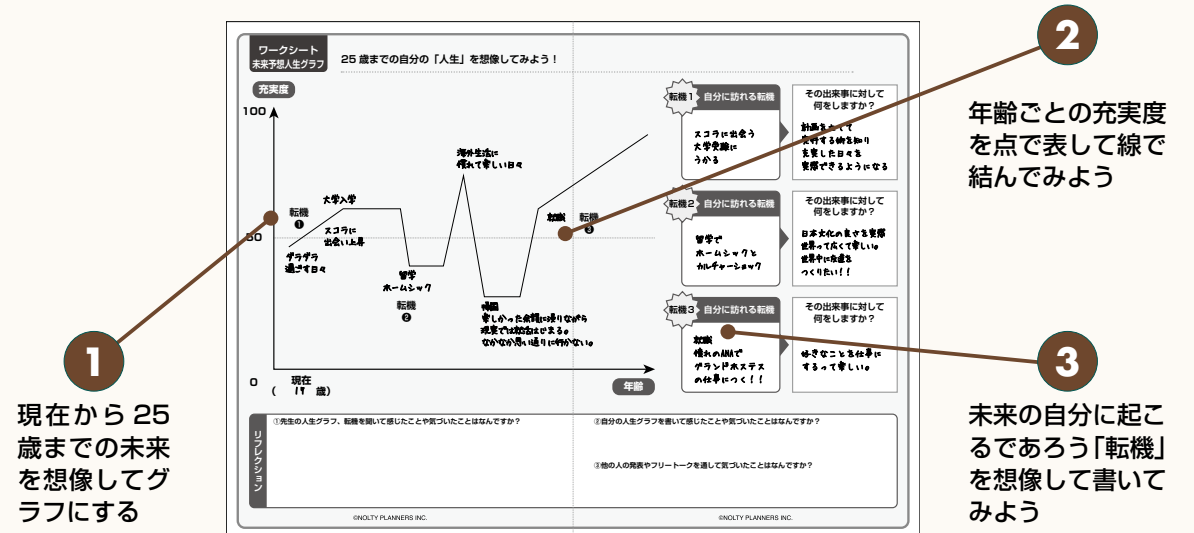
- ▶ ワークシート下部のリフレクションを記入する
- ▶ 設問項目
 - ①先生の人生グラフ、転機を聞いて感じたことや気づいたことはなんですか？
 - ②自分の人生グラフを書いて感じたことや気づいたことはなんですか？
 - ③他の人の発表やフリートークを通して気づいたことはなんですか？

まとめ
(37~45分)

わたしの人生グラフ(またはサンプルを使用)

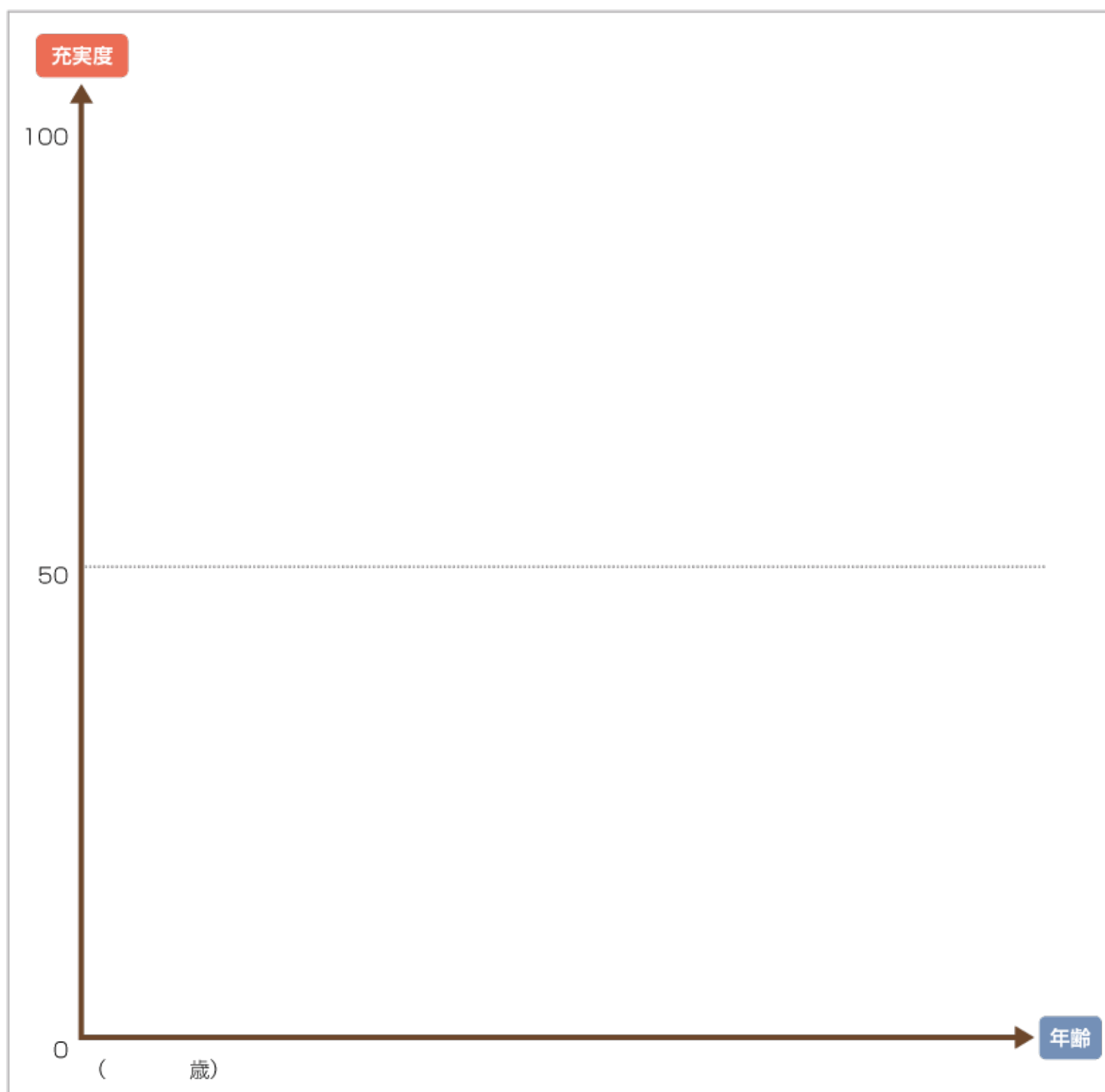


ワークシート記入例



アレンジ

1. 中学生に対しては、年齢設定を「20歳」に引き下げてもOKです。
2. 「社会人講話」を開催する際には、是非講師の方にこの人生グラフを作成していただき、生徒に配布するなどして活用してください。講師の人生グラフを知ることによって講話の内容がより理解できるようになります。生徒は自分の将来を想像すると同時に、より多くの大人の人生グラフに触れることで、「この人はここまで辿りつくまでにどんなことをしてきたのだろう」とより具体的な生き方をイメージできるようになります。



自分に訪れる
転機

その出来事に対して
何をしますか？



自分に訪れる
転機

その出来事に対して
何をしますか？



自分に訪れる
転機

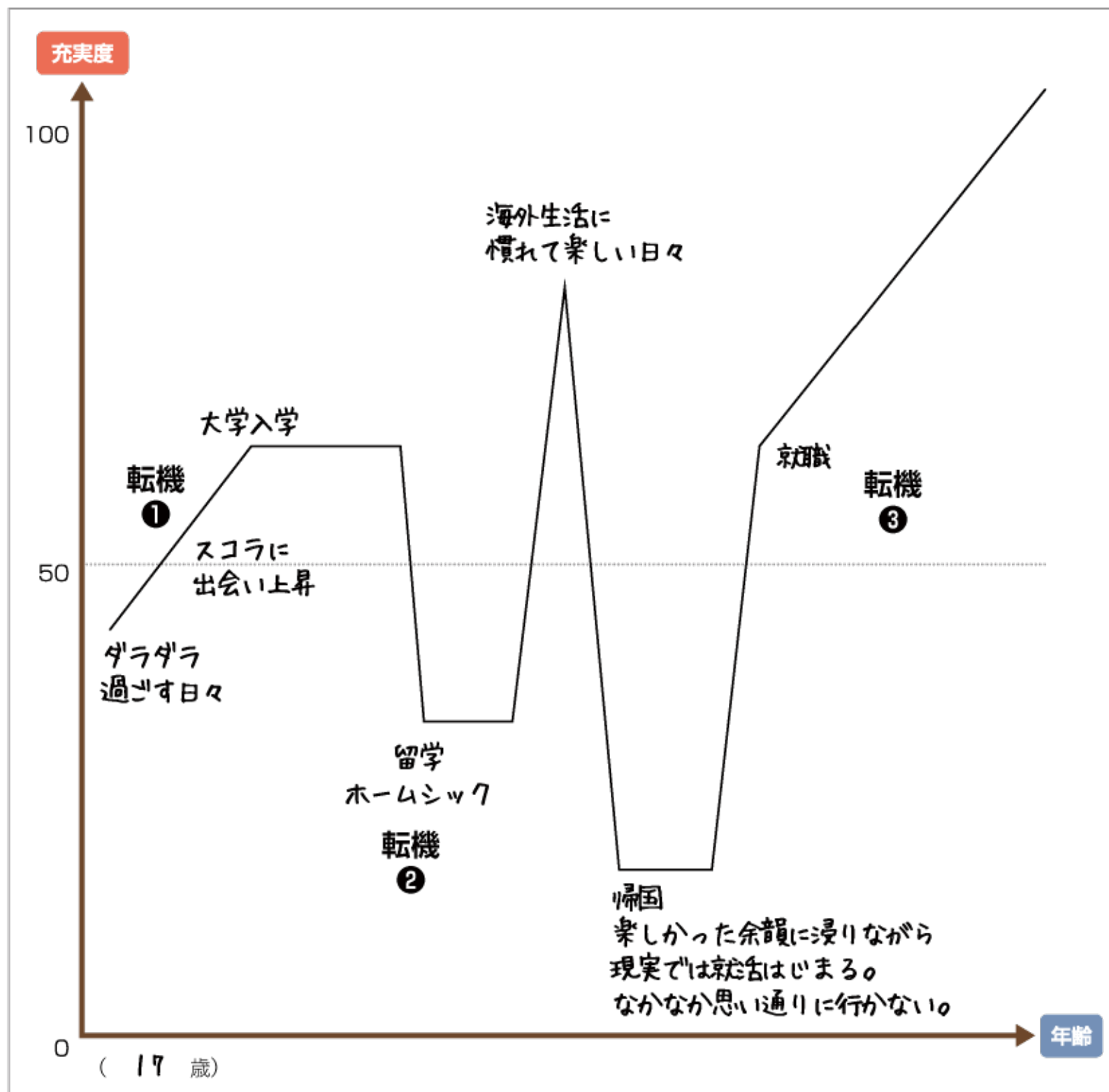
その出来事に対して
何をしますか？



わたしの人生グラフ (サンプル)

名前:

職種/業種:



転機 1

自分に訪れる 転機

スコラに 出会う
大学受験に
かかる

その出来事に対して
何をしますか？

計画を立てて
実行する術を知り
充実した日々を
実感できるようになる

転機 2

自分に訪れる 転機

留学で
ホームシックと
カルチャーショック

その出来事に対して
何をしますか？

日本文化の良さを実感
世界って広くて楽しい
世界中に友達を
つくりたい！！

転機 3

自分に訪れる 転機

就職
憧れのANAで
グランドホステス
の仕事につく！！

その出来事に対して
何をしますか？

好きなことを仕事に
するって楽しい。

定期テストで「PDCA」を学ぶ

◆必要授業数：2コマ ◆実施推奨時期：定期テスト前後

テスト前

授業概要

- ▶ 定期テストを通じて、PDCA サイクルの考え方を学んでいきます
- ▶ テスト前に、具体的な目標設定をし、その目標達成のために「何を」「いつ」「どの程度」実施するのかという学習計画を立てていきます

到達レベル目標

- レベル1** 目標に対して学習計画を立てて行動しようとしている
- レベル2** 学習計画をより具体的に立てることができる
- レベル3** 立てた学習計画を実行できる

内容目標

- ①PDCAサイクルを学ぶ
- ②学習計画の立て方を学ぶ
- ③他の人の学習計画を参考にして自分の学習計画を具体化する

態度目標

- ①話す ②質問する ③説明する ④動く
- ⑤チームで協力する ⑥チームに貢献する

準備物

- ▶ スコラ手帳
- ▶ 目標設定&振り返りシート
- ▶ 学習計画シート（ワークシート）
- ▶ 試験範囲一覧

テスト後

授業概要

- ▶ 定期テストを通じて、PDCA サイクルの考え方を学んでいきます
- ▶ テスト後には、「振り返り」をして課題を見つけ次への「工夫・改善」を考えます

到達レベル目標

- レベル1** 目標に対して結果とやり方を振り返ろうとしている
- レベル2** 振り返りに対して、工夫・改善策を考えることができる
- レベル3** 工夫・改善策を実行することができる

内容目標

- ①PDCAサイクルを学ぶ
- ②結果と学習のプロセスの振り返り方を理解する
- ③振り返ったことから課題を見つけ、次への工夫・改善策を考える

態度目標

- ①話す ②質問する ③説明する ④動く
- ⑤チームで協力する ⑥チームに貢献する

準備物

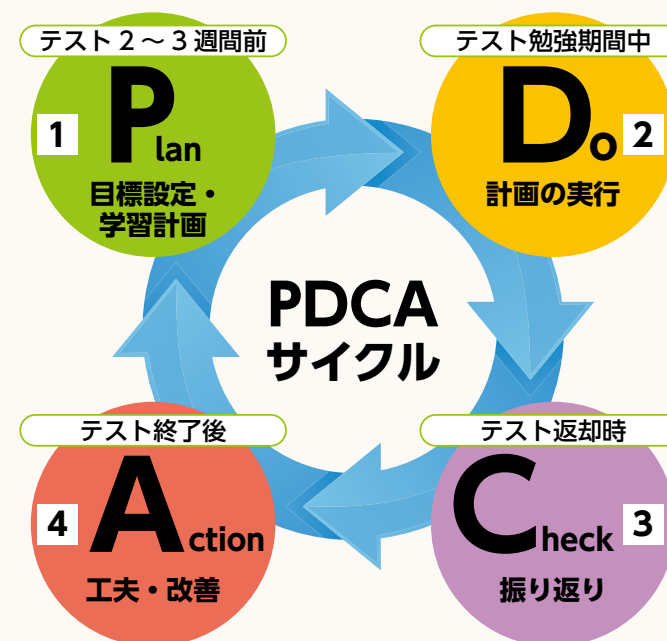
- ▶ スコラ手帳
- ▶ 目標設定&振り返りシート
- ▶ 学習計画シート
- ▶ 付箋

PDCAサイクルの大切さ

PDCA サイクルとは、下記の図を見ていただくとわかるように、「PLAN（計画）→ DO（実行）→ CHECK（振り返り）→ ACTION（工夫・改善）」のことです。

計画や予定を立ててから実行に移したほうが、何の計画も立てずに、ただ行き当たりばったりに行動するよりも、仕事や勉強の効率が格段に上がります。

次に実行できたこと、できなかったことを振り返って考えてみます。何が良くてうまくできたのか。何が悪くてうまくできなかったのか。良い点、悪い点を振り返ります。そして、それらの振り返りを次の計画を立てるのに役立てます。良かった点は次の計画時にも同様に活かし、悪かった点は何らかの工夫を加えて、同じ失敗をしないように改善した計画を立てます。この「計画→実行→振り返り→工夫・改善」の流れを繰り返し実施していくことが、「PDCA サイクル」というものです。このサイクルを連続して回すことで、計画力や実行力が徐々に向上していきます。この「PDCA サイクル」はビジネス界では常識であり必要不可欠なものです。できるビジネスパーソンは、仕事の進め方が合理的かつ効率的であり、日々、進化・改善のための工夫を重ねています。まさに、PDCA サイクルを習慣として実践しているということです。中高生の段階でこの考え方を理解し実行することは、生徒の将来にとって必ず役に立つものになります。



1 Plan 目標設定と学習計画を立てる

- テスト前1 各教科の点数と順位の目標を設定する
- テスト前2 テストまでにやるべきことの抽出と学習計画を立てる（前回の振り返りの内容を見返して計画に活かす）

2 Do 学習計画を実行する

- テスト前3 やるべきことを手帳に書き写し、その計画に沿って学習を実行する

3 Check テストの振り返りをする

- テスト後1 各教科の点数と順位をワークシートに記入する
- テスト後2 「振り返り」で自分の行動を分析する

4 Action 次回に向けての課題と改善点を考える

- テスト後3 次への改善点やチャレンジすることを書いておく



テスト前 授業の流れ 所要時間 45 分

導入
(0~5分)

〈5分〉態度目標と内容目標を説明する

✓ 本時の「授業概要」「態度目標」「内容目標」を伝える

📋 授業概要

- ▶ 定期テストを通じて、PDCA サイクルの考え方を学ぶ
- ▶ テスト前には、具体的な目標設定をし、その目標達成のために「何を」「いつ」「どの程度」実施するのかという学習計画を立てる

👤 態度目標

- ①話す ②質問する ③説明する ④動く ⑤チームで協力する ⑥チームに貢献する

📌 内容目標

- ① PDCA サイクルを学びましょう
② 学習計画の立て方を学びましょう
③ 他の人の学習計画を参考にして自分の学習計画を具体化しましょう

展開①
(5~17分)

〈12分〉目標設定をする

目標設定&振り返りシートに記入

✓ ステップ1：目標を記入する（5分）

- ▶ 今回のテストで優先順位が高い科目を考え、ワークシート「目標設定&振り返りシート」の「①科目名」欄に順番に記入する
- ▶ 優先順位が一番高い科目の、「②点数 ③順位 ④学習時間」を記入する

✓ ステップ2：グループで見せ合う（5分）

- ▶ 5人前後でグループをつくり、記入したワークシートを見せ合いながら質疑応答を行う

✓ ステップ3：残りの科目の目標を記入する（2分）

- ▶ 残りの科目の「②点数 ③順位 ④学習時間」を2分以内で書けるところまで記入する

展開②
(17~37分)

〈20分〉学習計画を立てる

学習計画シートに記入

✓ ステップ1：自分が使える時間を把握する（5分）

- ▶ テストまでに学習時間として使える時間の合計を計算する
 - ①手帳を見返して1日に自分が学習時間として使える時間がどのくらいあるのかを計算する
 - ②「1日に使える学習時間」×「テストまでの日数」で計算し、土日の学習時間を上乗せして、使える時間の合計を算出する

✓ ステップ2：学習方法を考える（15分）

- ▶ 「学習計画シート」に科目ごとの学習方法を考えて記入し、優先順位をつける
(順位付けの視点：①重要度 ②点数配分 ③自分の理解度や得意・不得意) を考慮する
- ▶ 手帳の週間ページに考えた学習方法を実行する予定を記入する
- ▶ 優先度の高いものから予定を入れる

👉 指導のポイント

【理想と実際の差を意識する】「自分が使える時間の合計」と「必要な学習時間の合計」を見比べ、大きな差があれば、計画として成立しない。学習時間を見直すか、生活時間を見直す必要がある
【自由度を高める指示】この作業を行うときは「他の人と学習計画を見せ合ったり、計画を一緒に立ててもOKです」と、生徒の行動の自由度を高める指示を出しましょう

定期テストで「PDCA」を学ぶ

〈8分〉リフレクションを記入する

✓ リフレクションを記入する

- ▶ ワークシート「学習計画シート」下部のリフレクションを記入する
- ▶ 設問項目
 - ①態度目標をどのように実行しましたか？
 - ②学習計画の立て方で気づいたことはありますか？
 - ③残りの科目の学習計画を、「どの科目を」「いつまでに」「どんな風に」作成しますか？



テスト前授業／ワークシート記入の流れ

展開① 〈目標設定 & 振り返りシート〉に記入

展開② 〈学習計画シート〉に記入

宿題 〈手帳〉に記入

目標設定

学習計画

宿題 (任意)

① 科目名

② 目標点数

③ 目標順位

④ 学習時間の目標

⑤ 使える時間合計

⑥ 教科名

⑦ 試験範囲

⑧ 学習方法

⑨ 優先度

⑩ 学習必要時間

⑪ 学習必要時間の合計

◆「目標設定」と「学習計画」をくり返し、全科目分の試験までの学習方法を手帳に書き込む

👉 テクニック！

手帳の週間スケジュール欄にある中央線を活用しよう。その左側に学習計画を、右側には実際にやったことを記録していきましょう。(記入例参照)

この方法で予定と実績のギャップを記録として残しておく、振り返りをするときの材料となり、次への改善に活かすことができます。

導入
(0~5分)

〈5分〉態度目標と内容目標を説明する

✓ 本時の「授業概要」「態度目標」「内容目標」を伝える

授業概要

- ▶ 定期テストを通じて、PDCA サイクルの考え方を学ぶ
- ▶ テスト後には、「振り返り」をして課題を見つけ、次への「工夫・改善」を考える

態度目標

- ①話す ②質問する ③説明する ④動く ⑤チームで協力する ⑥チームに貢献する

内容目標

- ① PDCA サイクルを学びましょう
② 結果と学習のプロセスの振り返り方を理解しましょう
③ 振り返ったことから課題を見つけ、次への工夫・改善策を考えましょう

展開①
(5~20分)

〈15分〉結果と学習方法の振り返りをする

目標設定&振り返りシート「振り返り」に記入

✓ 結果に対して満足度をつける

- ▶ テスト結果に対する満足度*を付箋に書き出す（※例：「◎○△×」「%」「目標点±○点」など）

✓ 学習方法の振り返りを行い共有する

- ▶ 学習方法に対する「①良かった点 ②気づいた点 ③改善したい点」を付箋に書き出す
▶ グループで付箋を見せ合う ▶ 質疑応答を行う ▶ 重要だと思う振り返りをシートに記入

展開②
(20~35分)

〈15分〉次からの学習方法を考える

目標設定&振り返りシート「次への工夫・改善策」に記入

✓ 振り返りをもとに、工夫・改善策を考える

- ▶ 次のテストに向けた「工夫・改善策」を付箋に書き出す
▶ グループで見せ合う ▶ 質疑応答を行う ▶ 他の人のものも含めて取り入れたい方法をシートに記入

指導のポイント

- ▶ 気持ちの面ではなく、具体的な行動について考えるよう促しましょう

まとめ
(35~45分)

〈10分〉リフレクションを記入する

✓ リフレクションを記入する

- ▶ ワークシート「目標設定&振り返りシート」下部のリフレクションを記入する
▶ 設問項目
① 態度目標を実行するためにどんな工夫をしましたか？
② 明日から予習や復習などの学習にどのように取り組みますか？
③ 明日から授業にどのような態度で臨みますか？

アレンジ

1. 各教科の授業内で実施することもできます。試験範囲の発表時や、答案用紙の返却のタイミングに合わせて実施すると意識が高まります。
2. 初回の授業で、計画から振り返りまでの手順が理解できたら、2回目以降は宿題として各自に実施させることもできます。必要であればワークシートを提出させるなどして授業者が確認しましょう。

〈参考〉ワークシート記入の流れ

① 科目名

② 各科目の点数結果

③ 平均点

④ 順位の結果

⑤ 学習時間の実績

⑥ 振り返り
(良かった点、気づいた点、改善点)

⑦ 次への工夫・改善策

◆手帳を見ながら実際に各科目の学習にあてた時間を把握する

◆学習方法の良かった点、気づいた点、改善点を自分なりに分析する

◆次のテストに向けての工夫・改善策を書く

〈目標設定 & 振り返りシート〉に①～⑦の順に記入する

目標設定&振り返りシート						用紙 / テスト		
科目名	目標	点数	平均点	順位	学習時間	振り返り(良かった点、気づいた点、改善点)	次への工夫・改善策	リフレクション
①	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	① 態度目標をどのように実行しましたか？
②	目標							② 明日から予習や復習などの学習にどのように取り組みますか？
③	結果							③ 明日から授業にどのような態度で臨みますか？
④	目標							
⑤	結果							
⑥	目標							
⑦	結果							
⑧	目標							
⑨	結果							
⑩	目標							
⑪	結果							
⑫	目標							
⑬	結果							
⑭	目標							
⑮	結果							
⑯	目標							
⑰	結果							
⑱	目標							
⑲	結果							
⑳	目標							
㉑	結果							
合計	目標							
	結果							

大人の手帳リサーチ

◆必要授業数：1コマ ◆推奨時期：夏休みの宿題、職業体験時

授業の概要

- ▶ 身近な大人に手帳を見せてもらい、手帳の使い方や職業や職種・役割による活用方法やこだわりなどを調査し、ワークシートに報告書としてまとめます
- ▶ 報告書をクラスで共有し、多くの大人の手帳に触れる機会をつくります

到達レベル目標

- レベル1** 手帳活用で身に付く力と、将来社会で求められている力に繋がっていることを理解している
- レベル2** 手帳活用の意義を理解でき、自分なりの活用の動機を持ち始めている

内容目標

- ① 大人の手帳に触れることで、社会の職業や職種をリアルに感じる
- ② 普段活用している手帳が、自分の将来につながるツールであることを理解する
- ③ 大人の手帳を見て自分の手帳活用の参考にする

態度目標

- ① 話す ② 質問する ③ 説明する ④ 動く ⑤ チームで協力する ⑥ チームに貢献する

準備物

- ▶ ワークシート
- ▶ A4 用紙（白紙のもの、クラス人数分）

手帳を通して大人の社会を覗く

「大人の手帳リサーチ」のプログラムは生徒が少し手帳の活用に慣れてきた時期の実施をおすすめします。手帳はもともと社会人の時間管理や行動管理のためのツールとして活用されているので、大人が実際に活用している手帳を見ると、社会人にとっての時間管理の重要性や手帳活用の工夫などが見えてくるでしょう。それだけではなく、ある職業の人が普段どのような業務を行っているのか、その職業や業種の特徴なども見えてきます。

学校のキャリア教育の取り組みとして「社会人講話」や「企業訪問」などを実施することがあると思いますが、このプログラムはそれらの取り組みと連動させて実施することも効果的です。また、夏休みの自主活動またはグループ活動の宿題として行うのも良いでしょう。

授業の流れ 所要時間 45 分

〈夏休みの課題〉調査を行い、報告書を作成する

✓ ワークシート調査計画書を作成する

- ▶ 身近な大人の手帳を見せてもらい、手帳の使い方について調査し報告書を作成する
- ▶ 事前にワークシートの調査計画書を記入し、提出する
指導者は調査計画書を事前に確認し、未提出者や調査対象者を見つけれなさそうな生徒に対する救済措置として、誰かと協同で行うことを提案する
- ▶ 夏休み期間中にリサーチを実施し、報告書を作成する（A4 サイズの白い紙に自由にまとめる）
※調査の際に学校側からの依頼書を持参させる

〈5分〉態度目標と内容目標を説明する

✓ 本時の「授業概要」「態度目標」「内容目標」を伝える

授業概要

- ▶ 身近な大人に手帳を見せてもらい、手帳の使い方や職業や職種・役割による活用方法やこだわりなどをワークシートを使って調査する
- ▶ 報告書をクラスで共有し、多くの大人の手帳に触れる

態度目標

- ① 話す ② 質問する ③ 説明する ④ 動く ⑤ チームで協力する ⑥ チームに貢献する

内容目標

- ① 大人の手帳に触れることで、社会の職業や職種をリアルに感じましょう
- ② 普段活用している手帳が、自分の将来につながるツールであることを理解しましょう
- ③ 大人の手帳を見て自分の手帳活用の参考にしましょう

〈30分〉調査内容を発表する

✓ グループで発表を行う（5分）

- ▶ 5人前後でグループをつくる
- ▶ 1人ずつ報告書の発表を行う（発表時間は1人1分）
※発表後、聴き手は必ず発表者に拍手を送り感謝を示すよう伝える

✓ 代表作品を選出する（5分）

- ▶ 各グループで代表作品を1つ選出する

✓ 代表作品の発表を行う（20分）

- ▶ 各グループから選ばれた代表作品の作者が、全体に向けて発表を行う（1人2分）
※発表後、聴き手は必ず発表者に拍手を送り感謝を示すよう伝える

〈10分〉リフレクションを記入する

✓ リフレクションを記入する

- ▶ ワークシート下部のリフレクションを記入する
- ▶ 設問項目
 - ① 大人にインタビューをして気づいたことはなんですか？
 - ② 代表作品の発表で気づいたことはなんですか？
 - ③ これからの自分の手帳活用に活かせることはなんですか？

アレンジ

1. 全員の報告書を冊子にまとめることで、様々な職業紹介・手帳活用術紹介冊子としても活用できます。

The worksheet is titled 'ワークシート 大人の手帳リサーチ' (Worksheet: Adult's Notebook Research). It is divided into several sections:

- 調査計画書 (Investigation Plan):** Includes fields for '調査対象者' (Investigation Target), '調査日時' (Investigation Date/Time), '調査場所' (Investigation Location), and '調査方法' (Investigation Method).
- 調査内容 (Investigation Content):** Contains three numbered questions for reflection:
 - ① 手帳に何を覚えているか (What do you remember from the notebook?)
 - ② 手帳の使い方を覚えていること (Remembering how to use the notebook)
 - ③ 手帳の使い方のコツで、この職業ならではの活用方法 (Tips for using the notebook, unique usage methods for this profession)
- 調査のまとめ (Conclusion):** Includes a section for '気づいてみたいこと (疑問) (What I want to know (question))' and a section for '気づいたこと (発見) (What I discovered (discovery))'.

校内手帳甲子園

◆必要授業数：1コマ ◆実施推奨時期：夏休みの宿題、9月～10月、文化祭

授業概要

- 自分の手帳の活用術やこだわりのポイント、さらに手帳への想いなどを、シート（応募用紙）に記入します。その内容をグループ内（クラス）で発表し、評価し合います

到達レベル目標

- レベル1** 手帳活用で身につく力と、将来社会で求められる力に繋がりを理解できる
- レベル2** になりたい自分をイメージすることができ、必要な能力の習得のために、積極的に手帳を活用している

内容目標

- ① 仲間の手帳活用を見ることで、より良い手帳活用方法を学ぶ
- ② 仲間の良いところや学んだことを自分のスキル・知識として展開する力を育成する

準備物

- 最新の手帳甲子園応募用紙
※ NOLTY プランナーズのホームページからダウンロードができます（7月中旬以降）。
- 手帳甲子園評価シート
- ワークシート

授業の流れ

校内手帳甲子園の概要を説明する

- ✓ 夏休み前に「手帳甲子園応募用紙」と「応募用紙／記入例」を配布する
 - ▶ 予め人数分のコピーを準備しておく
 - ▶ NOLTYプランナーズのホームページから最新の応募用紙がダウンロードできます。
[手帳甲子園] で検索してください
- ✓ 応募用紙の作成方法や選考会までの全体の流れを説明する
 1. 「手帳甲子園応募用紙」の作成は夏休みの宿題とする
 2. 「手帳甲子園応募用紙／記入例」を見せ、作成方法を理解させる
 3. 「手帳甲子園評価シート」を見せ、選考会の評価方法を説明する

手帳甲子園応募用紙の作成（夏休みの宿題）

- ✓ 夏休み中にも生徒には継続して手帳を活用するよう促す
 - ✓ 夏休みの宿題として「手帳甲子園応募用紙」を作成させる
 - ▶ スコラ手帳を見返して、お気に入りのページをカラーコピーし「応募用紙」に貼りつける
 - ▶ アピールしたいポイントなどを、付箋に書いて貼ったり、シールなどでアピールすると良い
- ※夏休み前には告知だけにとどめ、夏休み明けに応募用紙に記入するやり方もあります。

クラス内で手帳甲子園選考会を開催する

- ✓ 全ての応募用紙を壁などに貼り出す
 - ▶ 机の上に並べても良い
- ✓ 「手帳甲子園評価シート」をコピーして配布し、評価・採点を実施する
 - ▶ あらかじめ人数分のコピーを準備しておく
 - ▶ 「手帳甲子園評価シート」内の「学校独自の評価視点」の欄を事前に書き足しておく

取り組み方の説明

- ▶ 評価シートの評価視点に基づき、採点をするように促す
- ▶ 他人の手帳のマネしたい点や気づきなどを、メモしておくように促す

※夏休み明けに応募用紙を記入するやり方では、休み明けすぐに応募用紙を配布してください。

評価シートを回収&リフレクションを記入する

- ✓ 評価シートを回収し、必要に応じてクラス代表や学年代表を選出する
 - ▶ 代表に選出された作品はぜひ「手帳甲子園全国大会」にご応募ください！
- ✓ リフレクションを記入する
 - ▶ 校内手帳甲子園のリフレクション（ワークシート）を記入する
 - ▶ 設問項目
 - ① 校内手帳甲子園に作品を提出して感じたことや気づいたことはなんですか？
 - ② 他の人の作品を見て気づいたことや、自分の手帳活用に活かそうかなことはなんですか？
 - ③ あなたはこれから手帳の使い方をどんな風に変えたいと思いますか？ 箇条書きで3つ以上書いてください。また、いつから始めるかを書き加えてください。

選考会アレンジ

1. 学年全体もしくは学校全体での選考会、または文化祭の1つのイベントとするなどして盛り上げていくと、生徒のやる気も上がります。保護者へのアピールとなり、手帳を活用することの理解につながります。
2. 生徒に「手帳甲子園選考委員会」を組織させ運営を任せる。
3. 誰の手帳なのか分からないように名前を伏せた状態で評価させる。
4. 「わたしの手帳活用術」をテーマとした生徒のプレゼンテーション大会にする。
5. 学校独自で新たな「部門」を設定してみる。

手帳甲子園。(全国大会)

手帳甲子園はNOLTYスコラプログラムをご採用いただいている学校の中で、優秀な活用事例を紹介し、表彰する大会です。

手帳甲子園



学校名		ふりがな		NOLTY スコラ使用歴	Before → After
学 年	学年 男 ・ 女	名 前		年 カ月	学年 月 → 学年 月

のりしろ

のりしろ

(1) 下記の点線を目安に、スコラの使いはじめのページ(Before)と、成長や変化が少しでも表れているページ(After)を重ねて貼り付けてください
【下】 Before (例: 高校2年生6月1週目のページ) 【上】 After (例: 高校3年生8月2週目のページ)

(2) キャラクターや著名人などのシールやイラストは貼らないでください
(コピーの場合には、あらかじめ外した状態でコピーをお取りください)

(3) Before → Afterは
学年をまたいでもまたがなくてもどちらでもかまいません

(4) 付箋などを利用して、使い方のアピールポイントを教えてください

※原寸大 カラーコピー

[上] After

[下] Before

次の質問に答えてください
♥ 一行目に一言でまとめて書いてください
♡ 二行目以降は文章で詳しく書いてください

① スコラ手帳を使って、成長できたことはどのようなことですか?

♥

♡

② 活用をどのように工夫しましたか (ビフォーアフター)?

♥

♡

③ 成長したいと思ったきっかけ、あるいは活用を工夫したきっかけはなんですか?

♥

♡



手帳甲子園 応募用紙（記入例）

△手帳に植込ボードでくまなく活用（活用率99%）



【手帳活用部門】

学校名				ふりがな	てしょうたろう	NOLTYスコラ使用歴	Before → After
学 年	1	学 年	男・女	名 前	手帳太郎	○ 年 6 カ月	学 年 月 → 学 年 月

次の質問に教えてください
♥ 一行目一言でまとめて書いてください
♡ 二行目以降は文章で詳しく書いてください

①スコラ手帳を使って、成長できたことはどのようなことですか？

♥
♡

②活用をどのように工夫しましたか（ビフォーアフター）？

♥
♡

③成長したいと思ったきっかけ、あるいは活用を工夫したきっかけはなんですか？

♥
♡

After



Before

毎週
目標を
立てる

毎日
学習時間を
記録する

二枚を重ねて貼る
上…現在のページ
下…使い始めのページ



手帳甲子園評価シート

仲間の手帳の活用術を見て、下記の評価項目に基づき点数を記入しよう。(各5点満点)

点数 ⑤点 とても良くできている ④点 良くできている ③点 できている ②点 あまりできていない ①点 できていない

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		さん	さん	さん	さん	さん	さん	さん
①表現力	自分の手帳の使い方を他人にわかりやすく説明（表現）できているか	点	点	点	点	点	点	点
②継続性	手帳を継続して活用していくための工夫や手法がある（毎日の習慣など）	点	点	点	点	点	点	点
③独自性	自分ならではのルールや工夫、こだわりがある	点	点	点	点	点	点	点
④参考度	自分の手帳活用の参考にしたいか。取り入れたいか	点	点	点	点	点	点	点
学校独自の評価視点 ⑤（ ）		点	点	点	点	点	点	点
合計点数		点	点	点	点	点	点	点



メモ欄：仲間の手帳を見た感想や気づきなどをメモしておこう。

1 分間スピーチ

～ループリック評価～

◆必要授業数：1 コマ ◆実施推奨時期：9 月以降

授業概要

- ▶ 手帳に書いてある行動記録や振り返りの内容などを題材にして作成した 260 字程度
の原稿で 1 分間スピーチを実施する
- ▶ 話し手は人に伝えることを意識してスピーチし、聴き手側は評価基準に基づき評価をする

到達レベル目標

- レベル1** 自分の経験の中から題材を見つけ、発表することができる
- レベル2** 聴き手に伝えることを意識して発表することができる

内容目標

- ①自分の考えや伝えたいことを、聴き手に伝える力をつける。スピーチの型を覚える
- ②ループリックの手法で評価することによって、発表者と聞き手が評価基準を理解し、より良いスピーチの方法を理解する
- ③他の人のスピーチを聞いたり評価を貰ったりしながら、自分自身のスピーチを振り返る

態度目標

- ①話す ②質問する ③説明する ④動く
- ⑤チームで協力する ⑥チームに貢献する

準備物

- ▶ ワークシート
- ▶ 1 分間スピーチ評価シート
- ▶ 事前課題：スピーチ原稿

ループリックとは？

- ▶ ループリックとは評価基準のことです。ループリックという具体的な評価基準を設定することで、生徒たちが自らの立ち位置を自覚し、より高い次元を目指そうと意欲的に学ぶ効果があります。

原稿作成時の指導ポイント

- ▶ 生徒にはあらかじめ「1 分間スピーチ評価シート」の内容を見せ、どのような視点で評価を行うのかを確認させましょう。聞く相手に伝わりやすい文章・言葉遣いを意識したスピーチ原稿の作成を促しましょう。
- ▶ 1 分間スピーチは、定期的に行うことで効果が出ます（1 年に 1 度、学期に 1 度など）。
- ▶ スピーチのテーマの題材は、期間を指定し（「ここ 1 ヶ月間で」や「2 学期を振り返って」など）手帳に書かれている内容から選ばせましょう。そうすることによって、手帳にどんなことを書きとめるべきなのかを気付かせることができます。
- ▶ 次回の 1 分間スピーチの予定を提示すると、そこに向けて手帳活用の意識が高まります。

授業アレンジ

- ▶ 朝のホームルームの時間に毎日 1 ～ 2 人ずつ 1 分間スピーチを行うということも可能です。
- ▶ 先生方が生徒に身につけさせたいと思う力を「評価の視点に盛り込む」ことによって、いろいろな場面で活用することができます。

授業の流れ 所要時間 45 分

事前課題

1 分間スピーチの原稿を書く

- ✓ 授業当日までに、ワークシートを使って 1 分間スピーチの原稿を作成するよう伝える
 - ▶ 生徒にはあらかじめ「1 分間スピーチ評価シート」を見せ、どのような視点で評価を行うのかを伝える
 - ▶ スピーチの題材は期間を設定し、その期間の手帳を見返して自分の伝えたいテーマを決めて原稿を書いていく
例)「夏休みの出来事」「2 学期を振り返って」など

導入（0 ～ 5 分）

〈5 分〉態度目標と内容目標を伝える

- ✓ 本時の「授業概要」「態度目標」「内容目標」を伝える

授業概要

- ▶ 手帳に書いてある行動記録や振り返りの内容などを題材にして、作成した原稿で 1 分間スピーチを実施する
- ▶ 話し手は人に伝えることを意識してスピーチし、聴き手側は評価基準に基づき評価をする

態度目標

- ①話す ②質問する ③説明する ④動く ⑤チームで協力する ⑥チームに貢献する

内容目標

- ①対象の期間を振り返りながら、自分の考えや伝えたいことを、聴き手に伝える力をつけましょう
- ②ループリックの手法で評価することによって、発表者と聴き手が評価基準を理解し、より良いスピーチの方法を理解しましょう
- ③他の人のスピーチを聞いたり評価を貰ったりしながら、自分自身のスピーチを振り返りましょう

展開（5 ～ 30 分）

〈25 分〉1 分間スピーチを実施する

- ✓ 1 分間スピーチの準備（5 分）
 - ▶ 原稿を見直し、修正を行う
 - ▶ スピーチの練習をする
- ✓ 発表＆評価シートを記入する（20 分）
 - ▶ 5 人前後のグループをつくり、評価シートを配布する（1 人につきグループの人数分必要。事前にコピーをする）
 - ▶ 各グループで 1 分間スピーチを実施する（授業者が時間を計る）
 - ▶ 発表は 1 人 1 分。発表終了後、聴き手は発表者に拍手し、評価シートを記入する（3 分）
 - ▶ 評価シートを発表者本人に渡す
※グループ全員がこの手順を繰り返していく

指導のポイント

- ▶ 発表後は必ず拍手で発表者を称え、感謝する雰囲気大切にしましょう
- ▶ ループリックの評価視点やレベルは変化するので、生徒のレベルや育成したい力に合わせて、独自の評価表を作っていくことが良いでしょう

まとめ（30 ～ 45 分）

〈15 分〉リフレクションを記入する

- ✓ リフレクションを記入する
 - ▶ ワークシート「1 分間スピーチの原稿を作成しよう！」下部のリフレクションを記入する
 - ▶ 設問項目
 - ①受け取った評価シートを使って、上のレーダーチャートを完成させてください
 - ②完成したレーダーチャートを見て気づいたことはなんですか？
 - ③メンバーの発表を聞いて気づいたことはなんですか？
また、次にあなたがスピーチするときには、どんなスピーチにしますか？



1 分間スピーチ評価シート

▶発表者

さんへ

▶評価者

より

聞き手の皆さんは、下記の評価基準に基づき評価をしてください。

	4 点	3 点	2 点	1 点	点数
① 時間配分	制限時間を有効に使い、話の流れがスムーズである	制限時間を有効に使えた	制限時間内で終わらなかった	制限時間前に終わってしまい、時間を持て余した	点
② 声	はっきりとした声で話し、聴き手に伝えようとする意思を感じる	はっきりとした声で話している	声が聞き取りにくい、聴き手に伝わりにくい	声が聞き取りにくい。聴き手に伝えようとする意思が感じられない	点
③ 文章 言葉遣い	文章構成と言葉遣いが適切なので、聞きやすくわかりやすい	文章構成は良いが言葉遣いが良くない部分がある	文章がわかりにくい部分や言葉遣いが良くない部分がある	文章がわかりにくく、言葉遣いが良くない(文章に誤りがある。敬語の使い方が間違えているなど)	点
④ スピーチの内容	内容がとてもわかりやすい。他の人の模範になるような工夫がされている	内容は伝わる。聴き手が興味を持てるように、工夫がみられる	内容はおおむねわかる。聴き手が興味を持てるようもう少し工夫が必要である	内容がわかりづらい。聴き手が興味を持てるよう工夫が必要である	点
⑤学校独自の評価視点					点

▼発表者への質問またはコメント・アドバイスを書いてください。

合計点

点

1年間の振り返りをしよう

◆必要授業数：1コマ ◆実施推奨時期：2～3月

授業の内容

- ▶ ワークシートの質問項目に沿って、過ごしてきた1年間を振り返っていきます
- ▶ ワークシートに書いた「1年間の目標」の内容を見返して、「できたこと」と「できなかったこと」を考えながら記入します
- ▶ 来年への希望や決意を、その理由とともにワークシートに記入します

到達レベル目標

- レベル1** 振り返りにより、自分の気づきや成長を見つけることができる
- レベル2** 自分ができること・できないことを客観的に分析することができる
- レベル3** 自分が不得意なことの克服に向け、課題解決に立ち向かうことができる

内容目標

- ① 1年間という長期間を振り返り、次の1年という長い期間を見定めた計画をつくる
- ② 良かった点・うまくできた点を確認し、次の年の課題を設定する
- ③ 課題に対して大まかな計画・方針をつくる

態度目標

- ① 話す
- ② 質問する
- ③ 説明する
- ④ 動く
- ⑤ チームで協力する
- ⑥ チームに貢献する

準備物

- ▶ スコラ手帳
- ▶ ワークシート

？ 振り返りの大切さ

PDCA サイクルの中でも、特に重要なのが、Cの「振り返り」です。自分の行動を振り返るということは、自分をよく知ることです。

- 自分は何に何時間使っているのか？ 時間を無駄にしていないか？
- どんなことに興味があり、どんなことが苦手なのか？
- 計画したことができているか？
- なぜ成功したのか？なぜできなかったのか？

10代の頃というのは、自分のことを客観的に見ることがむずかしい時期です。手帳に書いたことを見返して「振り返り」することを習慣化すると、自分では気づかなかった習慣や特徴が見えてきます。自分の強みを理解することで、それをさらに伸ばすことができます。自分の弱点がわかれば、それを克服する方法を考えることができます。自分の将来を考える上でも、自分の特徴を自分自身がきちんと知っているかどうかは重要なポイントです。日々手帳に予定や行動を記入し、定期的に自分を振り返って気付いたことをメモしておけば、進学や就職のときにも役立つことは間違いありません。

また、「振り返り」は反省ではありません。生徒に「振り返り」をさせると反省点を書く傾向があります。反省は、自分の行動の悪いところやできなかったことを見つけ、それを直すためにどうするかを考えること。「振り返り」では悪い点だけでなく、良い点やできたことにもしっかりと視点を向けることが大切です。「できたこと」はそのまま生徒の自信になります。この自信が次への挑戦の原動力となるのです。

導入 (0～5分)

〈5分〉態度目標と内容目標を説明する

✓ 本時の「授業概要」「態度目標」「内容目標」を伝える

授業概要

- ▶ ワークシートの質問項目に沿って、過ごしてきた1年間を振り返る
- ▶ ワークシートに書いた「1年間の目標」の内容を見返して、「できたこと」と「できなかったこと」を考えながら記入する
- ▶ 来年への希望や決意を、理由とともにワークシートに記入する

態度目標

- ① 話す
- ② 質問する
- ③ 説明する
- ④ 動く
- ⑤ チームで協力する
- ⑥ チームに貢献する

内容目標

- ① 1年間という長期間を振り返り、次の1年という長い期間を見定めた計画をつくりましょう
- ② 良かった点・うまくできた点を確認し、次の年の課題を設定しましょう
- ③ 課題に対して大まかな計画・方針をつくりましょう

展開 ① (5～10分)

〈5分〉ワークシートを記入する

✓ ワークシートの①～③の項目を記入する

展開 ② (10～32分)

〈22分〉ペアワークを2回行う

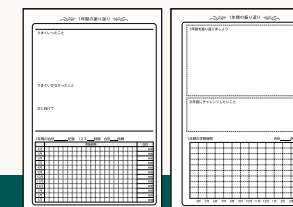
✓ ステップ1：ワークシートを読み、質問を考える（5分）

- ▶ 2人1組でペアをつくり、お互いのワークブックを交換して読み込む。
下記の定番質問の他に、生徒に独自で質問を考えるよう伝える（1～2個）。
- ▶ 定番質問
Q1 今年1年に点数をつけるなら何点ですか？
Q2 どんな心がけや工夫でQ1の点数になったと思いますか？

✓ ステップ2：ペアでQ&Aを行う（6分）

- ▶ 一人が質問し、もう一人が答える（3分）
- ▶ 3分が経過したら、指導者は役割を交代するよう声をかける
- ▶ 再びQ&Aを行う（3分）

✓ 新しいペアをつくり、ステップ1・2を繰り返す（11分）



まとめ (32～45分)

〈13分〉ワークシートを完成させる&リフレクションを記入する

✓ ワークシートを完成させて、リフレクションを記入する

- ▶ ワークシートの項目④・⑤を記入してワークシートを完成させる
- ▶ ワークシート下部のリフレクションを記入する
- ▶ 設問項目
① 態度目標は実行できましたか？また、質問を受けたり質問する中で気づいたことはなんですか？
② 1年間を振り返って一番嬉しい気づきはなんでしたか？また、来年の楽しみはなんですか？
③ 1年間を考えるという大きなPDCAをまわすことは、あなたにとってどんな意味がありましたか？

✓ スコラに転記する

- ▶ 本授業の内容をもとに、スコラ手帳の「1年間の振り返り」ページを記入する